

## 本堂

愛宕念仏寺の本堂は、鎌倉時代（1185～1333）の建築物の保存状態が良い例であり、国指定重要文化財に指定されています。この建物は 1922 年に山腹にある現在の場所に移築され、1980 年代に大規模な修理が行われました。格子天井は鎌倉時代の設計の特徴を持ち、その中央付近には上に持ち上がった空間がありますが、それはかつて仏座上部の空間の重要性や神聖さを強調していました。この寺院の本尊は、元来この持ち上がった空間の真下に安置されていましたが、その後、経典を唱えながら内側の聖域を回って歩くなどの祈願方法に適した空間を作るため、仏座は後ろに下げられました。

ご本尊は厄除千手観音（不吉を退ける千手観音）、厄から守ってくれるといわれる慈悲の菩薩です。この千手観音の多数の手とそれらの手にある持物は、困窮する人々を救うために手を差し伸べる菩薩を象徴しています。この像は、本堂が建てられた頃に彫られました。何世紀にもわたって、この像には手の一部がありませんでしたが、後に、西村公朝によって修理されました。本堂で注目すべき他の像としては、空の旅の守護者である飛雲観音、母子の守護者である訶梨帝菩薩が挙げられます。